



小田小だより

平成29年5月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号

TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

子育て四訓！ ～こどもの日に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

爽やかな5月の風に校庭の木々もそよと揺れ、新緑の若葉も私たちの目を楽しませてくれる季節となりました。新しい学年になって1ヶ月が経ち、がんばった4月の疲れが出てくる時期です。子どもたちは様々な要求をしながら、心の安定を求めてきます。優しく接してあげることも大切ですが、その接し方や子育ての参考にしていただけたらと思い、アメリカインディアンの間に伝えられているという「子育て四訓」をご紹介します。

子育て 四訓

1. 乳児はしっかりと肌を離すな
2. 幼児は肌を離せ、手を離すな
3. 少年は手を離せ、目を離すな
4. 青年は目を離せ、心を離すな



子どもたちの問題行動は、人間愛、親子愛の欠落に起因している部分が多いと言われています。問題行動の背景に愛情不足や親子の分離不安があり、いわゆる、親や社会に対する“甘え”があるという指摘です。しかし、そうした子どもたちに「甘えるな！」と試してみても、そうせざるを得ない過程を経てきているのです。親としても教師としても社会としても、そこに目を向けることが必要であり、形態はちがっても親子の関係を見直す必要があるのではないのでしょうか。

○乳児はしっかりと肌を離すな

胎児は、母親と臍の緒でつながり、羊水の中で守られています。出生と同時に赤ちゃんは外界にさらされ不安になります。母親がしっかりと肌と肌を触れ合わせることによって、赤ちゃんは「守られている」「かわいがられている」と無意識のうちに感じ、信頼し安心するのです。それが、愛情や信頼、情緒安定、他人を思いやる心など、人間形成の基盤になると言われています。

○幼児は肌を離せ、手を離すな

自立に目覚める幼児期は、ちょっと周囲のものに注意や関心があり、完全な保護から社会に向けて一歩を踏み出す時期であり、自立させるための第一段階とも言うそうです。常に親がそばにいるか手をつなぐことで、「心配しなくてもいいよ」という安心感を与えることが大切です。

○少年は手を離せ 目を離すな

少年は、友達との付き合いによって社会性が育つ時期です。ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてやるべきでしょう。ただし、いろいろな危険があるので、目を離してはいけません。この時期、子どもが親に反抗したり、非行や問題行動に走ったり、いろいろなことで苦しい思いをするかもしれません。しかし、それは成長の過程です。親としてしっかり受け止め、共に成長することを心がけるべきでしょう。子どもの荒れの背景には、親や教師、友人に『こちらを向いてほしい！』というメッセージであることが多いのですから。

○青年は目を離せ 心を離すな

青年期にまでなると、完全に自立していくために、自分なりの生きがい、進路を歩んでいくときですが、気持ちの上では心を離してはいけないということです。いずれにしても、子育ての最終的な責任は親にあるという基本を忘れないようにしたいものです。

学校は、これからも子どもたちとの出会いを大切にしながら家庭と地域と手を携えて、もてる力を精一杯発揮していきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。